

谷津幼稚園

“できた！”を通じて自信と体力を育む

楽しみながら自然と体を動かす機会を増やすために「うきうきスポーツday」をスタートしました。講師による年6回の指導により、さまざまな運動器具を使ったサーキット運動を実施しており、運動の楽しさや基本的な動きの習得を促しています。取り組みを通じて、これまで遊ぶ子が少なかった鉄棒で逆上がりの練習に挑戦する姿や、うんていで遊ぶ姿をよく見るようになり、子どもたちの運動への関心や意欲に大きな変化が見られるようになりました。また、体を動かすことへの苦手意識が少しずつ減り、運動が「楽しい」「好き」と感じる子が増えてきたように

思います。子どもたちが自ら考え、協力し、挑戦する力を育んでいることに大きな喜びと成長の手応えを感じています。

本園では、取り組みを通じて、子どもたちが心も体ものびのびと成長できる環境づくりを大切にしています。運動の楽しさを感じながら、挑戦する力・協力する姿勢・自分を信じる気持ちを育むこの取り組みは、単なる体力づくりにとどまらず、これからの時代を生き抜くための“生きる力”の基盤になると考えています。そうした未来への土台を築く取り組みとして、今後も継続・発展させていきたいです。（園長 萩原 栄）



すわ幼稚園

トランポリンで平衡感覚と三半規管を鍛えて体幹強化

「キッズ体幹強化チャレンジ」と題し、年少、年中、年長の各学年で3回ずつとプレ保育の期間に1回、トランポリンを実施しています。本園は縄跳びが得意な子どもが多いのですが、取り組みを通じて“飛ぶ力”が強化されたためか、体操の先生が驚くほどさらに縄跳びが上達し、あや跳び、交差跳びも上手になり、縄跳び大会では白熱したバトルが繰り広げられるまでに成長しました。子どもたちはトランポリンが大好きで、トランポリンの日をとても楽しみにしています。



これまでに、ヒップホップダンスや空手エクササイズ、忍者レッスン、キッズヨガなど、さまざまな取り組みを実施し、子どもたちの成長に効果を感じています。特にトランポリンは子どもたちから人気があり、保護者の皆さんにも喜んでもらえていることから、今後も継続していきたいと考えています。（園長 加治 茂幸）

特集

健やかな心と体を育む 特色のある幼児教育

子どもを取り巻く環境 と幼児教育の重要性

近年、地域コミュニティの希薄化や、核家族化による子育て世代の孤立など、子どもを取り巻く環境の変化が、子どもの発育に影響を与えていると指摘されています。

子どもは生活や遊びの中で、さまざまな体験を通して、情緒的・知的な部分が発達し、社会性を養い、社会の中で生活するための基礎を身につけていきます。特に幼児期は発達・成長が著しい時期で、この時期にたくさんの経験をすることは、将来、人とのつながりの中で心豊かに充実した生活を送るために大変重要であると考えられています。

そこで、幼稚園などの施設には、教育内容のさらなる充実と、子ども一人ひとりとって実りある生活につながるような、特色のある幼児教育への取り組みが期待されています。



市内幼稚園
一覧▼

特色のある幼児教育を 支援

市内の私立幼稚園（認定こども園の幼児教育を含む）では、子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら、子どもたちの健やかな成長を願って、多様な教育活動に取り組んでいます。

本市では令和元年に県内の自治体としては初めて「私立幼稚園特色のある幼児教育推進事業補助金」を創設し、各幼稚園が実施する独自性のある教育特色のある幼児教育を支援しています。対象となる取り組みは、各幼稚園から提案を受け、「独創性を高める工夫がある取組であるか」、「園児の能力を伸ばす取組であるか」、「園児の意欲を引き出す取組であるか」などを基準に審査を行い、現在、9つの私立幼稚園の取り組みを認定しています。

これからも子どものためのより良い教育を追求する私立幼稚園の取り組みを支援し、幼児教育のさらなる充実につなげていきます。

問 保育課 ☎049(252)7105

富士見みずほ幼稚園

おもいきり体を動かして、 いきいきと丈夫な心と体をつくる

おもいきり体を動かして、楽しみながら自然と運動能力が向上することをねらいとしてサーキットトレーニングを実施しています。平均台、跳び箱、マット、鉄棒、バランスキューブなどを組み合わせたコースを作り、ジャンプや前転、ハイハイ、バランス運動、昇降運動、ぶら下がりといったさまざまな運動をし続けることで、持久力の向上や体幹の強化など、丈夫な体づくりを目指しています。雨の日や近年の猛暑などにより外で遊べない時も、空調設備の整ったホールで天候に左右されず行うことができます。カラフルな用具を使って視覚的にも楽しめ、用具が並んでいる様子を見るだけでも子どもたちのわくわくした気持ちが高まり、運動が好きな子だけではなくみんなが飽きることなく取り組んでいます。また、運動能力だけではなく、説明をしっかりと聞く力や、遊び方を理解する力も身につけているのを感じます。

最初はうまくできなかったことでも、繰り返すことでだんだんとできるようになり、その経験が自信につながり、いきいきと取り組めるようになります。このことがほかの活動や日常生活にも波及してくれたらと願っています。(園長 細谷 洋)



銀の鈴幼稚園

音楽を好きに、そして、楽しむ心を育む

音楽を通じて“生きる力”“リズム感”“感性”の3つを培うことを目的に、鼓笛指導を実施しています。鼓笛は、これまで30年以上行ってきましたが、特色のある幼児教育としてより力を入れて取り組んでいます。具体的には、週に1回15～30分程度と月に1回はマーチングの講師に指導していただいています。年少は鈴やタンバリン、カスタネット、年中は鍵盤ハーモニカ、そして年長は鍵盤、多種太鼓、グロッケンなど、少しずつ時間をかけてさまざまな楽器に触れ、楽しんで取り組んでいます。子どもたちを見ていると、年少の頃から、年長の使う楽器や練習風景を見ていて、憧れがあるようです。

子どもたちが意欲を持って取り組めるよう、まずは音楽が好きになり、楽しむ心を伸ばしていけるようにしています。おゆうぎ会や運動会の年2回の発表の場で日ごろの成果を披露することを子どもたちはもちろん、保護者の皆さんもとても楽しみにしています。今後は、老朽化した楽器を入れ替え、新たな種類の楽器を導入することで、音楽活動のさらなる充実につなげていきたいと考えています。(副園長 吉富 尚子)



みずたに幼稚園

STEM教育で楽しく課題解決能力と協調性を育む

STEM教育とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字を取った言葉で、これらの要素を重視しながら社会の課題を発見し解決していく教育です。本園では、遊びの中で学ぶことを通して、子どもたちの知的好奇心を刺激しながら、楽しく学ぶ力、創造力、課題解決力、仲間と協力する力を育み、本園ならではのSTEM教育を進めています。年長は月1回「プログラミングをしてロボットを動かそう」の活動を行っているほか、通常の保育以外にも、ブロック玩具などを各保育室に常備し、遊びの中でSTEM教育活動を行っています。中にはブロック玩具で線路を組み立て、電車を走らせている子どももいて、電車が机の端まで行ったらバックするようプログラミングして遊んでいました。

子どもたちはものづくりが大好きで、プログラミング遊びも時間が足りないぐらい一生懸命遊んでいます。これからも、知的好奇心を揺さぶるSTEM教育を通して、子どもたちの資質・能力を育成し、よりよい成長につながるよう、取り組みを進めていきます。(園長 北田 裕一)



きたはら幼稚園

小さな自信が次の挑戦につながる

体育遊びは50年ほど前から取り入れていましたが、子どもたちを取り巻く環境が開園当初と比べて大きく変化し、日々の生活の中で昔の子どもが当たり前身に付けていたバランス能力や瞬発力などを習得するためには新たな環境が必須と考え、朝のサーキット運動を実施しています。ジャンプ・ステップ・走るなどの動作が必要な運動用具を使って、子どもたちがさまざまな動きを楽しく習得し、敏捷性や瞬発力が身につく、反応速度や動作の素早さの向上につながっています。取り組みを継続することで、苦手だった動きが楽しくできるようになり、できたという小さな自信が次の挑戦へとつながっていきます。どの子も足の動かし方がだんだんとスムーズになり、足も速くなったことで、より意欲的に取り組むようになった姿に成長を感じています。

今後も、体育教師によるサーキット運動の意義とねらいを重んじ、子どもたちの日々の生活や人間関係において、より穏やかで豊かな状態を築くために重要な土台となる朝のサーキット運動を、職員みんなで子どもたちと楽しんでいきたいと思っています。(園長 石川 京子)



南畑幼稚園

周囲の人々を笑顔にする成功体験が、心の成長に

幼児教育要領にある「音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」というねらいにおいて、マーチングは大きな成果を上げることができます。運動会の発表以外でも、保護者や地域の方を対象とした発表の場を設けて練習の成果を積極的に披露することで、子どもたちにとっては、自分自身の達成感だけでなく周囲の人を笑顔にする成功体験として、心の成長の糧になっています。年長は太鼓演奏、年中はポンポンや旗による演技でマーチングに取り組む中で、“がんばればできること”“音楽を表現する楽しさ”を実感することができます。年少はマーチングの演奏に憧れを持ち、真似をしながら音楽リズム活動に自然と馴染んでいく様子が見られます。



50年以上の歴史がある本園のマーチングによる音楽活動は、長年楽しみにしてくださっている地域の方にも親しまれています。今後もさまざまな場所で発表しながら、継続していきたいと考えています。(理事長 佐藤 明日子)



みずほ学園

富士見市の療育の中核を担う市立の“療育センター”

みずほ学園は、発達に心配のある就学前の子どもの通園施設として昭和47年に開設され、平成14年に木の温もりあふれる現園舎に移転しました。平成25年度に児童福祉法に基づく児童発達支援センターの指定を受け、本市の療育の中核を担う療育センターとなっています。園の療育は、臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士と連携しながら専門的な療育を行っています。

【通園での療育】

小集団の中で生活・遊び・運動などさまざまな活動に取り組み、子どもの課題に合わせながら、きめ細やかな支援を行います。本園で調理する給食や通園バスによる送迎もあります。幼稚園や保育所などと併用して利用する場合は、子どもの成長につながるよう相互に連携を図りながら療育を進めていきます。

【地域での療育】

幼稚園や保育所などに通っている子どもや在宅の子どもを対象に、発達に関する相談、在宅訪問、言語相談、機能訓練、グループ教室など、発達を支援するためのさまざまな事業を行っています。幼稚園や保育所などを訪問し、集団における療育について相談・援助を行う施設支援・巡回相談なども実施しています。園みずほ学園 ☎049-252-3237



富士見台幼稚園

音楽活動を通じて力を合わせることの大切さ、達成感を共有する

仲間と一緒に音楽活動を楽しむことで、本園の教育目標「元気でがんばりのきく子」「思いやりのある心の優しい子」「よく考え自分で判断できる子」をより意識してもらえないかと考え、週2回、各1時間程度の音楽活動を実施しています。年少では小さなリズム楽器から始め、年中では鍵盤ハーモニカ、年長で鼓笛と年齢を積み重ねていく中で音楽の楽しさを味わいながら、音感やリズム感、アンサンブル力を養い、お互いに力を合わせる大切さや達成感を共有することができます。音楽活動を通して、楽器が重くて多少つらくてもがんばり通すことの大切さ、一緒に取り組む友達もがんばっていることや、楽器を演奏する一人ひとりに役割があることへの気づきを促したいと考えています。



正しく音を追ったり、リズムを奏でるだけでなく、音の切り方やつなげ方もよく反応できるようになり、ポンポンなど動きのあるパートでも練習を重ねる中で、キレのいい動きを自分たちで意識してがんばっている姿に子どもたちの成長を感じています。そしてなにより、音楽のみならず活動に取り組むという集中力を養うことができていると実感しています。(園長 田中 浩)



ほんごう幼稚園

パラバルーンで体づくりと協調性を身につける

音楽に合わせて体を動かすことで体の発達を促進し、1つの技を完成させることで協調性を身につけ、運動会で披露することを目的に、週3回体育指導の先生と本園の教諭で指導にあたり、パラバルーンに取り組んでいます。子どもたちは、最初は苦戦していましたが、練習を積み重ねることで、パラバルーンに乗せたボールを空中に上げる花火という技を習得するまでに上達しました。技が成功した時の子どもたちの満面の笑みはとても印象的で、最近では、終わってから「もうおしまい？もう1回やりたい!」との声を聞くことが多くなりました。



運動能力を高め、子どもたちがより思いのままに体を動かせるようになることで楽しさを感じながら、けがをしにくい体づくりができればと思っています。また、パラバルーンは複数人で取り組み、音楽に合わせてさまざまな形や動きを表現することから、一緒に取り組む友達との関わりを深め、子どもたちのコミュニケーション能力の向上にもつながりたいと思っています。(園長 増田 義則)

